議会だより第102号に対する議会広報モニターからのご意見

設問	回答一覧
1. 表紙について	迫力があるいい写真を使っていて良いと思います。
	◯意見 目的と表現のミスマッチ：季節感や地域の風景写真は親しみやすさがある反面、「市議会の活動報告誌」としてのアイデンティティが欠落しています。行政発行の広報誌や観光パンフレットと同化し、市民が手にとった際に「今、議会で何が起きているのか」が一切伝わりません。 視覚的動線（アイキャッチ）の不在： タイトルロゴと表紙写真のみで構成されており、誌面内部へ誘導するための「目玉コンテンツ（特集や重要決議事項）」の見出しが配置されていません。 ◯改善案 レイアウトの報道（ジャーナリズム）化： 表紙面積の3割程度をテキスト・見出しスペースとして確保し、今号で最も議論されたテーマ（例：「〇〇事業費を可決」「防災協定の改定」等）を大見出し・サブタイトルとして大胆に配置してください。 「議事の現場」が見えるビジュアルの導入：単なる風景写真だけでなく、本会議場での議論の様子、委員会視察、あるいは特集テーマに関連する現場で活動する市民・議員の写真を組み合わせ、動的なデザインへ刷新することを提案します。
	前号に比べてインパクトが強くなり改善されたかと思います。『市報千曲』の表紙は地色を群青にし、文字を白抜きにしてありとても良い印象を受けました。 『議会だより』も地色を朱色系とか緑色系にするともう少し引き立つのではないでしょうか。また毎号同じ地色で出すとイメージの定着にも繋がっていくと思います。
	さっそく意見が反映されていたのでやりがいを感じます。獅子の迫力が目を惹く写真で、千曲市の季節感や行事内容を知るきっかけとなり良い思います。
	以前よりもシンプルに要素がまとまっていて、見やすくなっていると思いました。写真が大きく載っているのも、インパクトがあっていいと思いました。
	レイアウトは素敵だと思う。ただ、少し写真が荒く感じ、色が暗い印象を受ける。可能な限りでいいので、実際の色味に近づけた方が、祭りが魅力的に見えて議会誌に興味を持つ人が増えるかもしれない。
	前回のモニター意見を受けて、表紙が大きく変わったことが伝わりました。稲荷山祇園祭の勇獅子は迫力があり、人物も写っていることで動きが感じられ、以前より手に取りやすい印象になったと思います。 さらに行事や場所について簡単な説明や地図、二次元コードなどがあると、より関心や親しみを持てる表紙になると思いました。
	前の101号の議会だよりより表紙がリニューアルされていて、写真も前より見えやすくなっていたし色や丸の形とか使っていてとてもいいと思いました。
	良い表紙だと思います。
	まちの歴史を感じられるので良いと思います。ただ画素数はあげた方が良い。

2.「千曲市のこんなことが決まりました」、「委員会報告(Pick up)について」【P3~5】	整理された文書、配置になっていて良いと思います。
	◯意見 行政目線の「事後報告」に終始：決定された議案の名称と金額、担当委員会の名称が羅列されていますが、それらが「市民の生活や税金の使い道にどう跳ね返ってくるのか」という市民視点でのストーリー（意味付け）が決定的に不足しています。 専門用語による障壁：「先決処分事項」「債務負担行為補正」などの財政・行政用語が注釈なしで記載されており、予備知識のない一般的な読者を途中で離脱させる要因になっています。 ◯改善案 「市民への影響」インフォボックスの設置：各決議事項の横に、「★暮らしへの影響：〇〇地区の避難所設備が最新化されます」「★変更点：〇月より申請手続きがオンライン化されます」といった、市民側のメリット・変化を1言で要約した箇条書き欄を必須化してください。 用語解説（サイド注釈）の徹底： 誌面下部や余白（マージン）を利用し、ページ内で使われている難解な行政・議会用語のワンポイント解説（30～50文字程度）を常設することを提案します。
	コンパクトまとまり読みやすいです。 5ページの「Pick up3」については、もう少し説明が必要なのではないでしょうか。
	図、写真を交えた構成でとても見やすく思います。
	報告だけでなく、あがりやすい質問も記入してあるのは良い点だと思う。また、賛成/反対の意見（自分とは違う場合もある）を聞いて、なるほどなと思えるのも良い。
	Q&A方式で整理されていて、全体的に読みやすいと思いました。審議未了となった議案についても、理由が説明されていた点は分かりやすかったです。 ただ、「随意契約」「地区計画」「債務負担行為」など、聞き慣れない言葉もありますので、簡単な注釈があるとさらに理解しやすいと思いました。
	太い文字とかも使っていて、わかりやすく見えていていいなと思いました。
	紙面に限りがあるのは承知であるが、議案の詳細を記してほしい。
	一覧になっているため見やすくて良いです。議案名だけでなく内容もわかりやすく明記されているので個人的には良いと思います。QRコードが何にジャンプするのかわかると良い。

3−1. 一般質問(個人質問)について 【P7~11】	文字が大きくなっていて、とても読みやすいと思いました。
	◯意見 議論の「着地点」と「成果」が不明瞭：議員の質問と市の答弁が並列にまとめられているものの、結果として「市が前向きに対処する（約束した）」のか、「従来通りの回答で平行線に終わった」のかという質疑の結末（成果）が一目で判別できません。 問答の平坦化：すべてテキストの要約で埋め尽くされており、どの質問が特に重要で、どこで議論が白熱したのかというメリハリ（強調点）がありません。 ◯改善案 「答弁ステータスアイコン」の導入：質問タイトルの横に、市の答弁結果を示すピクトグラム（例：[実施決定][前向きに検討][継続協議][対応不可]など）を付与し、質疑によって市政がどう動いたかを可視化してください。 「議員の主張」と「市の見解」の視覚的分離：吹き出しデザインや見出しの色分けを活用し、どこまでが議員の提案で、どこからが市の公式回答なのかを直感的に識別できるレイアウトに変更することを提案します。
	一定の基準に沿っての記載があり、読みやすいです。
	1ページにギュっと凝縮されて、ひと目で多くの情報が見やすくなって読みやすいという印象です。概略を知りたいというのが一番の目的なので、今回の構成は良いと思いました。今回16名の議員さんが質問されたということですが、年度ごとでも良いので質問回数や大まかな質問種別などが一覧で見られたら、次回選挙の際に参考になりそうだなあーと思います。
	なぜ質問の方だけ太文字なのでしょうか。個人的には回答の内容の方が気になるので、そちらも視認性を上げてもらいたいです。
	今回の一般質問は、文量が短くなったことで全体に目を通しやすくなったと思います。顔写真の下に二次元コードがあり、詳しく知りたい場合は動画で確認できる流れも良いと思います。 ただ、短くなった分、答弁の背景や今後の方向性が少し分かりにくい部分もありました。紙面では要点を分かりやすく、詳しくは動画で確認できる形がより使いやすいと思いました。
	一つ一つ丁寧に質問にくわしく答えていて、議員さんはこういう風な考えををしているというのが伝わってきていいと思いました。
	回答をもっと詳しく記してほしい。
	要約されていて読みやすいが、アンサーが端的すぎるためもう少し説明があっても良いのではないか。

3–2. 一般質問の一人当たりの文量(選択式)	102号の文量がよい(1/4ページ)
	1/3ページ程度がよい
	102号の文量がよい(1/4ページ)
	102号の文量がよい(1/4ページ)
	102号の文量がよい(1/4ページ)
	102号の文量がよい(1/4ページ)
	1/3ページ程度がよい
	102号の文量がよい(1/4ページ)
	もっと分量を増やすべき
	以前の文量がよい(1/2ページ)

3−3. 上記を選んだ理由	文章がとても読みやすいものになっていた。
	◯理由 情報の過度な削ぎ落としによる弊害：従来の1/2ページから1/4ページへ半減したことで、確かに「誌面のすっきり感」や「省スペース化」は達成されました。しかし代償として、「なぜその質問をしたのかという背景（地域の課題感）」や「論点の深掘り・再質問の展開」がほぼ全カットされています。 議員のチェック機能の不可視化：表面的・定型的な質疑応答のみが残ることで、議員が真摯に市政を正しているプロセスの緊張感が市民に伝わらず、「ただ定例の質問をこなしているだけ」という誤解を招くリスクを生んでいます。 ◯改善案 1/3ページへの再微調整（紙面）：紙面上の視認性と情報量のバランスが最も取れる「1/3ページ（1ページあたり3名掲載）」を基本レイアウトとして再検討してください。 クロスメディア連携（Web補完）：紙面（1/4～1/3ページ）では要点と上記ステータスアイコンのみを掲載し、「質疑の詳細なやり取り（1/2～全量相当）は二次元コードからYouTubeの該当タイムスタンプやWeb版会議録へダイレクトに飛べる」仕組みを構築することで、紙面の制約と情報保障を両立させるハイブリッド運用を提案します。
	詳しいことが知りたい場合、QRコードで視聴すればよいから。
	簡潔でわかりやすく、サクサク読むことができました。内容を詳しく知りたい場合にはYouTubeで見ることができるので、今回の文章量くらいが理解しやすいことと思います。（要約する手間は増していると思うので編集される方たちは大変かと思いますが…）
	より詳しく書いてあるほうが現状が伝わりやすいのではないかと思ったからです。
	この議員の方がどういう思いを持っているのかが一目でわかりやすいから。
	第102号の1/4ページは読みやすく、全体に目を通しやすいと思いました。 ただ、内容によっては少し短く感じ、「なぜそうなるのか」「今後どうなるのか」が伝わりにくい部分もありました。 以前の1/2ページは詳しい反面、読む側には少し重たく感じる場合もあると思います。そのため、読みやすさと内容の伝わりやすさのバランスを考えると、1/3ページ程度がよいのではないかと感じました。
	以前の文量は、多くのページを使って長くかいてあったので今回の102号の文量は、細かく文量が少なかったので今回の文量で大丈夫かなって思いました。 また、くわしく見たいという方もいると思うので今回の文量よりこれ以上、文量を減らさない方がいいのかなって思いました。 なので、この今回の102号の文量でいいと思います。
	この議会だよりの中で一番大切な部分だと思うのでもっと分量を増やすべき。
	Qは端的に記載。Aはもう少し説明があったほうが良いのではないかと思う

4. 討論、特別委員会報告、議会活動について【P5、6、11】	とても読みやすい配置、色づかいとなっています。
	◯意見 対立軸の不可視化：全員一致で可決した案件と、賛否が真っ二つに分かれた重要案件が同等に扱われがちです。特に「討論」において、賛成派・反対派がそれぞれどのような論理で主張を戦わせたのかという議会最大の醍醐味（合意形成のプロセス）が見えてきません。 ◯改善案 「争点対比表」の導入：賛否が分かれた重要議案については、「賛成側の主な主張（例：将来的なコスト削減に不可欠）」と「反対側の主な主張（例：市民への説明不足と懸念点）」を左右対比の表形式で掲載し、市民が「自分ならどう考えるか」を評価できる材料を提供してください。
	議会活動については、もう少し内容があると思うのでもう少し頁を増やしてもよいと思います。
	議員さんの普段の仕事というのがなんとなく想像しにくく、こういった活動報告があるのは良いと思います。もう少し踏み込んで、こんな地域のお祭りに出向いた、行事に参加したという個人に関わる内容があると面白いなあと感じました。広報の小川市長のコラムのようなイメージで、人となりが分かるような…
	討論は、賛成・反対の理由が掲載されていることで、議会内の考え方が分かりやすいと思いました。可能であれば、主な論点を短く整理してもらえると、さらに読みやすくなると思います。 特別委員会や議会活動については、写真があることで様子が伝わりやすかったです。今後は、調査や視察がどのように市政に反映されたのかまで分かると、より関心を持てると思います。
	討論の部分は以前の議会だよりより短縮されていて良いと思いました。P6の特別委員会では、こういうことをしていきたいとかしてもらいたいとか伝わりやすく、書いていてとても良いと思いました。また、P11の議会活動のことで活動でなにをやったのかとか枠にまとめて書いてあり、とてもいいと思います。
	討論、特別委員会についてはもっと分量を増やすべき。
	特に違和感なく読むことができます。

5. 特集ページについて【P2】	特にコメントはありません。
	◯意見 企画の意図・タイムリーさの不足：P2という最重要ページに配置されているにもかかわらず、「なぜ今このテーマを取り上げたのか」という時代性や問題意識が読み手に伝わりにくいケースがあります。文章量が多く、ビジュアル（図解やグラフ）によるグラフィック化が不十分です。 ◯改善案 インフォグラフィックの積極活用：複雑な制度改革や地域課題（例：空き家対策、防災インフラ整備、子育て支援など）をテーマにする際は、文章を極力減らし、イラスト、グラフ、フローチャートを多用した「一目で直感理解できるデザイン」に振り切ってください。 「市民当事者の声」の挿入：制度の説明だけでなく、その施策によって影響を受ける市民や事業者のインタビュー・声をワンポイントで掲載することで、身近な問題として読者に引きつける構成を提案します。
	よくまとまっています。
	意見の紹介や意見を受けて変わったところを記載することで、私たち市民の声が反映されている実感が湧くものでした。デザインもポップで分かりやすく、親しみやすいと感じました。
	興味を持ってもらいやすい、明るい印象でよいと思う。
	議会広報モニター制度について分かりやすく紹介されていて、市民の意見を取り入れていこうという姿勢が伝わりました。 前回の意見が吹き出しで紹介され、実際に表紙のリニューアルにつながったことが分かる構成は良かったと思います。 今後も「反映したこと」「検討中のこと」などが分かると、読者アンケートやモニター制度への信頼感につながると思いました。
	議会広報モニターが始まったよ！てことを伝えていたし、101号の議会だよりの表紙からこんな風に変わったよと千曲市民のみんなに伝えていいと思います。
	もっと、モニターの意見を掲載してほしかった。
	特に違和感なく読むことができます。

6. 裏表紙(市民の声・次回定例会予定等)について	鮮やかな色、読みやすい文書になっています。
	◯意見 情報の過密と優先順位の曖昧さ：連絡先、定例会日程、傍聴案内、市民の声などが一等地に混在しており、「読者に次にどのようなアクション（傍聴に来てほしい／意見を送ってほしい等）を起こさせたいのか」という動線（CTA：Call To Action）が弱いです。 ◯改善案 「議会参加への誘導」デザインの強化：次回定例会のスケジュール掲載にとどまらず、「傍聴の手引き（予約不要、キッズスペースの有無、所要時間の目安等）」を簡潔なステップ形式で記載し、市民が議会に足を運ぶハードルを下げてください。 オンライン配信への最短アクセス：「YouTube生中継・録画配信」へのアクセスQRコードを裏表紙の最も目立つ位置に配置し、スマートデバイスからの視聴者を強力に誘導する設計へ改めることを提案します。
	よくまとまっています。
	市民の声のコーナーで、未成年の方の意見も知りたいなあと思います。もしかするとすでに実施したことがあるのかもしれませんが…（今回議会モニターには中学生もいらっしゃるとのことなので、その方にお願いしたり？？） 顔写真を必須とせずに、千曲市に対してどんなことを思い・考えているのか気軽に発信できる場としても活用されればと思います。
	「市民の声」は、同じ市に住んでいても全く違う立場の人の意見を聞けて面白いので、ぜひ続けてほしい。
	市民の声は、若者や事業者の視点が入っていて興味深く読みました。創業支援や中小企業、個人事業主への支援、デジタル化やAI活用など、今の千曲市に必要なテーマだと思います。 次回定例会予定のカレンダーや傍聴案内も分かりやすかったです。今後も、年代や立場の違う市民の声を載せていただけると良いと思います。
	文字の色が以前と違う色で見えやすいしとてもいいと思います。
	現状のままで宜しいかと思います
	配置も読みやすく良いと思う。学生さんが意見を寄せられるような施策が欲しい

7. 紙面の見やすさ(字の大きさや文章量、色づかい、絵や写真、文章表現)、二次元コード等について	文字の大きさ、色づかい、絵や写真がバランスよく盛り込まれていていいと思います。
	◯意見 二次元コードの「誘導テキスト」不足：誌面各所に二次元コードが配置されていますが、「詳細はこちら」程度のアバウトな説明が多く、読み手がスマホをかざすメリット（何が見られるのか、動画なのかPDFなのか）が理解できません。 視覚的メリハリの不足：全体的にフォントサイズや行間が均一に近く、情報量の多さから「文字の壁」のような圧迫感を与えるページが存在します。 ◯改善案 行動を促す「具体名付きQRコード」：二次元コードの横には必ずアイコンと具体的なコンテンツ名を明記してください。（例：「[動画マーク]質疑の模様を動画で見る（約3分）」「[書類マーク]詳細な会議録資料（PDF）」など）。 ユニバーサルデザイン（UD）フォントと余白の確保：可読性の高いUDフォントの全面採用を継続しつつ、見出しと本文のメリハリを強調し、意図的に「空白（余白）」を作ることで、視覚的な疲れを軽減するレイアウト設計を行ってください。
	3頁の文字はもう少し大きくしてもよいと思います。あとは読みやすくなりました。
	コーナーごとにテーマカラーが分けられていて、パラパラとめくっても繋がりが分かりやすい構成だと思います。
	少し硬い印象を受ける。2Pのような雰囲気が惹きつけられ（親しみ）やすいかな？とも感じる。
	第102号は、全体的に明るくなり、前号より目を引く紙面になったと思います。表紙や特集ページは特に印象が変わりました。 一方で、ページによっては文字の向きや色づかいが多く、少し読みにくいと感じる方もいるかもしれません。デザイン性と読みやすさのバランスを意識していただけると良いと思います。 二次元コードについては、「動画約〇分」「該当質問から再生」などの説明があると、さらに使いやすくなると思いました。
	説明などをするなかで細かい文字があるのが見えます。例えば、特集ページの写真の隣の文字などで細かいところが見えない方もいるのかなと思います。そこでもう少しだけ太い文字にしてみるのもいいのではと思いました。 色とかは、とてもいいバランスで前より良くなっていていいと思います。
	現状のままで宜しいかと思います。
	基本的に読みやすいと思います。若い方からすると文字が大きすぎて余白が多い（情報量が少なく）見えます

8. その他お気づきのことがありましたらご入力ください。	改善が多くあり、皆様のがんばりがみえました。ありがとうございます。
	◯「紙（アナログ）」と「Web/SNS（デジタル）」の明確な役割分担（DXの推進） 紙の議会だよりは「すべての世代に届く一覧性」と「関心を持つきっかけ（トリガー）」に特化し、要約・図解・インフォグラフィックを中心とした構成へシフトすべきです。一方で、詳細なやり取りや補足データはWeb・SNS・YouTubeへ二次元コードでシームレスに誘導する「紙とデジタルのハイブリッド広報戦略」を議会全体として本格確立することを強く望みます。 ◯モニター意見の継続的フィードバックと検証 今回の文量削減のように、編集方針を変更した際は「変更して終わり」とするのではなく、変更後数号にわたって市民読者アンケートやアクセス解析を行い、データに基づいた改善サイクル（PDCA）を継続的に回す体制の構築を提案いたします。
	表紙のところでも書きましたが、用紙の地色を白色でなく強い系の色を決めて、この色は『議会だより』と印象付けをしたらよいと思います。
	前回のモニター意見が実際に反映されていたことは、とても良いことだと思いました。意見を聞くだけでなく、できることから改善していることが伝わりました。 今後は、議案や一般質問、委員会報告について、「何が決まったのか」「なぜそうなったのか」「これからどうなるのか」「市民生活にどう関係するのか」が、さらに分かりやすくなると良いと思います。 専門的な内容をすべて簡単にするのは難しいことだと思いますが、議会だよりが市民と議会をつなぐ入口として、より身近なものになっていくことを期待しています。
	考えて議会だよりを作ってくださり本当にありがとうございます。
	一般質問、討論、特別委員会報告についてはもっと分量を増やしていただきたい。この三つは議会だよりの一番の肝である。 勿論紙面に限りがあるのは十分承知しているし、議員の皆様ももっと書きたいというお気持ちを持っておられることも十分承知していますが・・・。